

楽観的応答エージェントによる心理状態改善手法の基礎検討

栗田 元気¹ 鈴木 天詩¹ 宮田 章裕^{1,a)}

概要 :

若年性うつ病と称される通称新型うつは、未だ十分な認知には至らない現状がある。新型うつの患者はその症状から怠惰な人間という印象を周囲に与えがちであることが、病気としての認知に繋がらないと推測されている。また、新型うつには従来のうつ病の薬が効きにくい特徴があり、現在のところ、専門医とのカウンセリングが有効な治療手段として用いられている。しかしながら、患者の中にはそもそも人の多い街中へ出てカウンセリングに赴くこと自体にストレスを感じる人も多い。そこで我々は、専門医との対話をエージェントに置き換えることによって、患者自身が負担を感じずに治療をすることができるシステムの構築を目指す。

A Study on an Optimistic Agent for Improvement of Psychological State

GENKI KURITA¹ TENSHI SUZUKI¹ AKIHIRO MIYATA^{1,a)}

1. はじめに

若年性うつ病は、新型うつ病と呼ばれ、患者数は増加しているが、未だに十分な認知がなされていない。従来のうつ病は「仕事に忠実であり規範に従う」といった真面目な印象を周囲に与えるものであったのに対し、新型うつ病は「失敗の原因を他人に求めがちであり、規範に対してストレスを感じ抵抗する」といった我儘な印象を周囲に与えることが、病気よりも怠惰な人として捉えられがちである。また新型うつ病は、元来の医薬品が効果を発揮しにくい特徴を持ち、主な治療は専門医によるカウンセリングを通じ、患者を否定せずに承認欲求を満たすことである。しかし、うつ病の患者は外出を好まない傾向にある為、外出を伴う治療はハードルが高いものである。そこで、本稿では患者の承認欲求を満たす手段として、自宅で利用可能なエージェントを用いるアプローチを提案する。

本稿の貢献は下記の2点である。

- 新型うつ病患者が低負担で承認欲求を満たすためのア

プローチとして、楽観的応答エージェントというコンセプトを示したこと。

- 楽観的応答エージェントを実装するための基本方針を示したこと。

2. 関連研究

本研究の関連研究は、新型うつ病そのものに関するものと、承認欲求に注目するものの、2つに大別できる。

2.1 新型うつ病について

新型うつ病に関しては、現代型のうつ病と承認欲求のつながりをまとめた斎藤 [1] や平瀬戸 [2] の研究がある。学生の間広がる抑鬱の研究としては風間 [3] や磯崎 [4] の研究があり、学生相談に来る学生の抱える問題を分類し、症状として抑鬱を抱えている学生が相当数いることを苦米地 [5] が指摘している。また、うつ病の患者と外出の間に負の関連性を認めた角田ら [6] の研究がある。

2.2 承認欲求について

承認欲求は、古くはマズローの自己実現理論における承認(尊重)の欲求とされ、自己信頼感や自己尊重感を得るこ

¹ 日本大学 文理学部

College of Humanities and Sciences, Nihon University

^{a)} miyata.akihiro@nihon-u.ac.jp

とで満たされるとされている。この欲求が阻害される場合に、無力感や劣等感といった新型うつ病に近い症状が生じるとされてきた。

最近の研究では、自己肯定感を満たすために、他者からの働きかけによって承認欲求を満たそうとする学生の様を調査した高橋 [7] や井上 [8] の研究がある。また、自分に類似した他者に対して好意を抱く傾向にあるといった旨の研究をした竹内ら [9] の研究がある。

3. 研究課題

3.1 問題の定義

うつ病の患者は外出に抵抗を感じる事が角田ら [6] の研究で明らかになった。従来のうつ病には、抗うつ薬とカウンセリングという2つの治療手法があった。しかし、新型うつ病には抗うつ薬が効きにくい為、カウンセリングを通じて患者の承認欲求を満たすことが、主な治療法として用いられている。つまり、うつ病の患者は外出を好まないが、治療するために外出する必要がある、患者が積極的に治療を受けられないことが問題である。

3.2 研究課題の設定

3.1節で定義した問題をふまえ、外出を伴わずに患者のタイミングで治療を行うことにより、治療へのハードルを下げる事ができると考えた。

この仮説に基づき、自宅で利用可能なエージェントが、専門医の代わりに患者の承認欲求を満たす技術の確立を研究課題に設定する。

4. 楽観的応答エージェントの提案

患者の承認欲求を満たす方法として、ユーザに語りかけられると、常に楽観的な応答を行うエージェントシステムを提案する。2.2から他者からの賛同や同調を得ることで承認欲求が満たされることがわかった。今回は、他者からの同意を示す一例としてエージェントが相槌を打つことで、患者の立場に同意し寄り添った立場を模すシステムを構築する。

5. 検証実験

現在、我々は次の実験を実施する準備を進めている。患者の立場に同意を示す例として、3つのエージェントの挙動を用意した。3つの挙動はそれぞれを、患者から入力内容に関わらず返答を行うベースライン方式、患者の意思を汲み取り患者と同じ立場に立った返答を行う引用方式、患者の意思を汲み取った上で単純な鸚鵡返しではなく、意味的に近いが異なる単語での返答を行う言い換え方式とした。

大学生複数人を対象に挙動を伏せた状態でランダムに選ばれた3つの挙動を体験してもらい、被験者の学生にエージェントとの対話を通じてエージェントの返答が、自身の

入力内容に対して寄り添った姿勢であったかを調査する。

5.1 ベースライン方式・相槌

ユーザから与えられた文字列に対して、エージェントが相槌を打つ。

入力例 今日のテストは大変だった。

出力例 大丈夫だよ。

5.2 引用方式・与えられた文字列の語を引用

与えられた文字列中の形容詞付き名詞を引用して返答。

入力例 今日のテストは大変だった。

出力例 大丈夫だよ、テストは大変だったね。

5.3 言い換え方式・与えられた文字列中の語を言い換え

与えられた文字列中の形容詞付き名詞を言い換えて返答。

入力例 今日のテストは大変だった。

出力例 大丈夫だよ、試験は大変だよね。

6. おわりに

本稿では、患者が増大しつつも治療へのハードルが高い若年性うつ病に焦点をあて、治療法の一つである患者の承認欲求を満たすため、楽観的な応答を用いるエージェントを提案した。今後は、ユーザの意図に沿った出力を行うことを目指してのシステム構築を目指し、学生への実験を通じてフィードバックを得たいと考える。

参考文献

- [1] 斎藤 環: 「現代型うつ病」と承認欲求 (特集「双極性障害」の真実) "New type depression" and esteem need アディクションと家族: 日本嗜癲行動学会誌 29(4), pp.297-303 (2014)
- [2] 平瀬戸 拓: 仮想的有能感と2つの承認欲求との関連: 抑うつ傾向の観点から九州産業大学大学院臨床心理センター臨床心理学論集 (11), pp.29-37 (2016)
- [3] 風間 惇希: 大学生における過剰適応と抑うつとの関連——自他の認識を背景要因とした新たな過剰適応の構造を仮定して (2015)
- [4] 磯崎 万貴子: 中学生におけるキレ行動と欲求の関係甲南女子大学大学院論集. 人間科学研究編 4, pp.19-32 (2006)
- [5] 苦米地 憲昭: 大学生, 学生相談から見た最近の事情 (特集 学生相談) 臨床心理学 6(2), pp.168-172 (2006)
- [6] 角田 憲治, 三ッ石泰大, 辻 大士, 尹 智暎, 村木 敏明, 堀田 和司, 大藏 倫博: 地域在住高齢者の身体活動量は外出形態, 抑うつ度ソーシャルネットワークと関連するか—余暇活動, 家庭内活動, 仕事関連活動に基づく検討—日本老年医学会雑誌, pp.516-523 (2011)
- [7] 高橋 美知子: 高校生における自己愛傾向と学校生活満足感の関連について—承認欲求からの影響についての検討—カウンセリング研究 39(1), pp.28-39 (2006)
- [8] 井上 みゆき: 若者の承認欲求の拡散とその心性の背景にあるもの島根大学教育学部心理臨床・教育相談室紀要 7, pp.117-126 (2012)
- [9] 竹内 勇剛, 片桐 恭弘: ユーザの社会性に基づくエージェントに対する同調反応の誘発 情報処理学会論文誌 (2000)